



四半期決算情報

本書はソシエテジェネラルが作成した英文資料の翻訳です。正確な内容については正文である英文の資料をお取り寄せの上、ご参照ください。

パリ、2013年5月7日

2013年第1四半期決算：全事業で堅調な業績、変革計画の第2ステージ開始

- 業務粗利益⁽¹⁾：62 億ユーロ
- 業績*は前年同期比で安定
- 全事業において経費率は低下
- リスク引当比率⁽²⁾は前期比 9bp 低下
- グループ当期純利益⁽¹⁾：8 億 5,200 万ユーロ⁽¹⁾
 - 良好な業績：10 億 9,400 万ユーロの利益
 - エジプトの子会社 NSGB の売却（3 億 7,700 万ユーロの利益）
 - 計上されたグループ当期純利益：3 億 6,400 万ユーロ
- コア Tier 1 比率（バーゼル III 基準）：8.7%、2013 年末時点で 9.5%に近い水準とする目標の確認
 - コア Tier 1 比率（バーゼル 2.5 基準）：10.6%
- 2015 年末までに 10%の ROE を達成するため、9 億ユーロの経費削減策を追加（2012 年～2015 年の期間で総額 14 億 5,000 万ユーロの削減）
- 一株当たり利益⁽³⁾：0.38 ユーロ

(1) 金融債務の再評価、レガシー資産および経常外項目を除く。業務粗利益への金融債務の再評価の影響：10 億 4,500 万ユーロの損失；レガシー資産：1,000 万ユーロの損失；国際財務報告基準（IFRS）第 13 号の新規適用：7,600 万ユーロの損失；営業費用への影響：レガシー資産：1,800 万ユーロの損失；資産売却の純損益：NSGB：4 億 1,700 万ユーロの利益、TCW：2,400 万ユーロの利益；引当金純繰入額：レガシー資産：3,500 万ユーロ、訴訟問題への引当金：1 億ユーロ。グループ当期純利益への影響：4 億 8,800 万ユーロの損失、うちレガシー資産：4,500 万ユーロの損失；金融債務の再評価：6 億 8,500 万ユーロの損失；資産売却：3 億 9,800 万ユーロの利益；IFRS 第 13 号の適用：5,600 万ユーロの損失；訴訟問題への引当金：1 億ユーロの損失。財務情報の基準となる事項の第 8 項を参照。

(2) 訴訟問題、レガシー資産、ギリシャのソブリン資産の控除後。リスク引当比率は安定的に低下

(3) 超劣後債および永久劣後債に係る税引き後支払利息（それぞれ 6,500 万ユーロおよび 1,400 万ユーロ）の控除後。2013 年 3 月末時点の税引き後キャピタルゲインおよび超劣後債の買戻しに係る未払い利息はゼロ

* グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベース

** 経済活動と関係ない項目（金融債務の再評価）および経常外項目、レガシー資産の控除後。財務情報の基準となる事項の第 8 項を参照

2013年5月6日に開催されたソシエテ ジェネラルの取締役会において、当グループの2013年第1四半期決算が承認された。業務粗利益は50億8,800万ユーロ、グループ当期純利益は3億6,400万ユーロだった。グループ当期純利益には、当グループの業績10億9,400万ユーロ（前年同期比13%増）およびエジプトの子会社NSGBの売却益3億7,700万ユーロが含まれている。

当グループの金融債務の再評価の経済活動と関係ない影響、経済活動と関係ない項目および経常外項目の修正再表示後では、業務粗利益は62億2,300万ユーロ、グループ当期純利益は8億5,200万ユーロだった。

この実績は堅固な業績、2010年以降グループ全体にわたり継続されている経費削減努力、および厳格なリスク管理を実証するもので、第1四半期の事業リスク引当比率の低下にも反映されている。

歴史的な低金利を背景に、**リテールバンキング業務**は引き続き良好な業績を上げ、特に預金受入高が好調だった。フランス経済の急激な減速にも関わらず、**フランス国内ネットワーク部門**の業務粗利益は前年同期に近い水準を維持した。**国際リテールバンキング部門**の収益も全般的に安定しており（前年同期比1.3%*減）、特にロシアにおいて選択的な成長戦略を継続し、ロシアの貢献は大幅に増加した。**専門金融サービス&保険部門**の収益は、保険事業の伸びおよび専門金融サービス事業の持続的に健全な利益率にけん引され、増加した。

コーポレート&インベストメントバンキング部門の収益は、いくつかの資産売却費による影響を受けた前年同期の水準を上回り、満足のいく実績となった。これは、特にエクイティ業務、債券・為替・コモディティ業務、ストラクチャードファイナンス業務、債券発行業務における業界屈指の地位に支えられたものである。**プライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント&サービス部門**は、取引量の低迷および低金利など、ブローカー事業にとって厳しい環境が続く中、プライベートバンキング事業の回復からの恩恵を受けた。

2013年第1四半期の**営業費用**は前年同期の水準を大幅に下回った（2.5%*減）。経費削減努力により、全ての事業部門の経費率は前年同期より改善した。数四半期を通して実践された営業費用削減策を踏まえ、組織構造の合理化、営業効率化対策、および外部費用の最適化に重点を置いた、全般的な経費削減計画が実施された。この計画の目標は、2015年までに営業費用を約9億ユーロ追加的に削減し（2012年～2015年では総額14億5,000万ユーロの削減）、2015年末までにグループが10%のROEを達成できる状態にすることにある。これには、同期間における約6億ユーロの変革費用および投資が含まれている。

ベースポイント⁽¹⁾で計測される**事業リスク引当比率**は、前期の84bpから75bpへ低下した。リスク引当比率は全般的に低下したが、特に**国際リテールバンキング部門**および**専門金融サービス部門**において顕著であった。フランス国内ネットワーク部門のリスク引当比率は安定しており、また、**コーポレート&インベストメントバンキング部門**は低水準を維持した。

2013年第1四半期末時点の当グループの「バーゼルIII」基準によるコアTier 1比率は8.7%と安定していた。「バーゼル2.5」⁽²⁾基準によるコアTier 1比率は10.6%となった。

当グループの2013年第1四半期決算に関して、会長兼CEOであるフレデリック・ウデアは次のように述べている。

「2013年第1四半期の業績は、ソシエテ ジェネラルが引き続き改革の途半ばにあることを示しました。希少資源、資本および流動性の規律のとれた管理を背景に、お客さまにサービスを提供することを目的とした好調な事業活動や営業費用の削減に支えられ、当グループの事業部門は健全な利益水準を維持することができました。また、2013年末までに「バーゼルIII」基準によるコアTier 1比率を9.5%に近い水準にすると目標に従い、グループの安定性により8.7%のコアTier 1比率を達成

⁽¹⁾ 年率ベース、訴訟問題および期初時点のレガシー資産の控除後

⁽²⁾ 欧州銀行監督機構（EBA）のバーゼル2.5基準（自己資本指令（CRD）3を取り入れたバーゼルII基準）を適用

しました。さらに、中期的に当グループの業績を一段と引き上げるために、今後も事業の適応および費用のシナジー効果の強化を継続いたします。また、2012年～2015年の期間に総額約15億ユーロの営業費用を削減する計画と共に、経費削減努力も継続して行ってまいります。2015年末時点でグループの変革が完了すれば、欧州における新たな経済および規制環境に適応した事業部門に支えられ、ソシエテ ジェネラル グループは10%のROEを達成できる見通しです。」

1. グループ連結決算

単位：百万ユーロ	2012 年 第 1 四半期	2013 年 第 1 四半期	増減
業務粗利益	6,311	5,088	-19.4%
比較可能ベース*			-16.7%
業務粗利益**	6,807	6,223	-8.6%
営業費用	(4,333)	(4,067)	-6.1%
比較可能ベース*			-2.5%
営業総利益	1,978	1,021	-48.4%
比較可能ベース*			-47.8%
引当金	(902)	(927)	+2.8%
営業利益	1,076	94	-91.3%
比較可能ベース*			-94.7%
当期純利益	732	364	-50.3%
当期純利益**	1,173	852	-27.4%

	2012 年 第 1 四半期	2013 年 第 1 四半期
グループ税引き後 ROTE	7.9%	3.2%

業務粗利益

当グループの 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は 50 億 8,800 万ユーロ（前年同期：63 億 1,100 万ユーロ）だった。

経済活動と関係ない項目および経常外項目、レガシー資産**の控除後では、収益は前年同期比 8.6%*減の 62 億 2,300 万ユーロとなった。

- 利ざやに著しい影響を与えた歴史的な低金利環境の中、**フランス国内ネットワーク部門**の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は 20 億 1,500 万ユーロと、前年同期の水準をわずかに下回った。事業活動は健全な水準を維持し、特に預金受入高は前年同期比 9.2%増と大幅な伸びを見せた。
- **国際リテール バンキング部門**の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は前年同期比 1.3%*減の 11 億 3,100 万ユーロと、全般的に安定していた。中・東欧の厳しい経済状況による影響は、ロシアおよびサハラ以南のアフリカの収益の伸びにより相殺された。
- **専門金融サービス&保険部門**の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は、保険事業の伸び（前年同期比 11.5%*増の 1 億 8,300 万ユーロ）による恩恵を受け、前年同期比 2.9%*増の 8 億 6,800 万ユーロとなった。資源の制約にも関わらず、専門金融サービス事業は利ざやを健全な水準で維持し、2013 年第 1 四半期の業務粗利益は前年同期比 0.8%*増とわずかながら増加し、6 億 8,500 万ユーロとなった。
- **コーポレート&インベストメント バンキング部門**の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は前年同期比 3.0%*増の 19 億 400 万ユーロとなった。主力事業部門の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は前年同期比 0.5%*増の 19 億 1,400 万ユーロだった。しかしながら、この数値には 2012 年に実施した当部門のローン資産ポートフォリオの売却費用（2 億 2,600 万ユーロ）および国際財務報告基準（IFRS）第 13 号の新規適用に係る影響（2013 年は 6,400 万ユーロの損失）は含まれていない。これら要因の修正再表示後では、業務粗利益は 8.0%減となり、グローバル マーケッツ業務の業務粗利益は、好調だった前年同期の水準を 7.2%下回り、また、

ファイナンス&アドバイザリー業務は 2012 年に実施した売却や取引高の低迷に加えて、欧州全般における事業の停滞を背景に、業務粗利益は前年同期比 10.4%減となった。

2013 年第 1 四半期の当部門のレガシー資産の業務粗利益に対するマイナス寄与は 1,000 万ユーロと、前年同期の 5,700 万ユーロのマイナス寄与より抑えられた。

- **プライベート バンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門**の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は前年同期比 3.0%*減の 4 億 5,700 万ユーロだった。持続的な低金利および事業にとって全般的に不利な環境において、当部門はプライベート バンキング事業の業務粗利益の回復（前年同期比 4.6%*増）から恩恵を受けた。

当グループの金融債務の再評価による 2013 年第 1 四半期の業務粗利益への会計上の影響は、10 億 4,500 万ユーロのマイナスとなった。2012 年第 1 四半期の業務粗利益は、金融債務の再評価から 1 億 8,100 万ユーロのマイナスの影響を受けた。

営業費用

2013 年第 1 四半期の営業費用は、全事業部門での経費削減努力を背景に、前年同期比 2.5%*減の 40 億 6,700 万ユーロとなった。

営業効率の改善は全ての事業部門において確認された。その結果、事業部門（コーポレート センターの対象となる事業を除く）の経費率は 62.9%と、全体では前年同期比で 3.5 ポイント⁽¹⁾ 改善した：フランス国内ネットワーク部門および国際リテール バンキング部門は 2.6 ポイントの改善、専門金融サービス&保険部門は 4.7 ポイントの改善、コーポレート&インベストメント バンキング部門は 3.9 ポイントの改善、プライベート バンキング、グローバルインベストメント マネジメント&サービス部門は 1.5 ポイントの改善となった。

経費削減策を継続すると共に、当グループは 3 つの目標を掲げ、効率化改善プログラムを開始することを決定した：(1)経費の削減および競争力の強化；(2)当グループの運営方法の簡素化；(3)事業間の費用シナジー効果の強化。当プログラムの効果は 2015 年末までに完全に享受できる見通しで、2012 年初比で総額 14 億 5,000 万ユーロ相当（2012 年に達成済みの 5 億 5,000 万ユーロを含む）の経費削減が見込まれている。当プログラムには、6 億ユーロ相当の変革費用および投資額が含まれており、事業には影響をもたらさない見通しである。

営業利益

2013 年第 1 四半期の**営業総利益**は 10 億 2,100 万ユーロとなった。金融債務の再評価による会計上の影響により、2013 年第 1 四半期の営業総利益は前年同期の水準を大幅に下回った（47.8%*減）。経済活動と関係ない項目および経常外項目、レガシー資産による影響の控除後では、2013 年第 1 四半期の営業総利益は前年同期比 12.9%*減であった。

2013 年第 1 四半期の**引当金繰入純額**は 9 億 2,700 万ユーロ（前年同期：9 億 200 万ユーロ）だった。

2013 年第 1 四半期に、当グループは訴訟問題に対して 1 億ユーロの引当金の積み増しを行った。

2013 年第 1 四半期の**事業リスク引当比率**（ローン残高に占める割合で表示）は 75bp⁽²⁾ と、前期（84bp⁽²⁾）の水準を下回った。

- フランスの経済環境の悪化を反映し、**フランス国内ネットワーク部門**のリスク引当比率は 65bp と前期比で安定していた。当グループは引き続き、主に法人部門において、商工業セクターの中規模企業に対する引当金の積み増しを行った。個人顧客の不良債権比率は依然として低水準にある。
- **国際リテール バンキング部門**のリスク引当比率は 154bp（前期：182bp）と全般的に抑制されていた。しかしながら、ルーマニアおよび地中海沿岸地域（特にアルジェリアとチュニジ

⁽¹⁾ 変化率は、2012 年の営業費用に関しては、2012 年末の事業に対するシステム税の課税の 25%、コーポレート&インベストメント バンキング部門に関しては 2012 年第 1 四半期に実施したローンポートフォリオの売却費 2 億 2,600 万ユーロを加味した上で、絶対ベースで算出している。

⁽²⁾ 年率ベース、訴訟問題、期初時点の資産にかかるレガシー資産およびギリシャのソブリン資産の控除後

ア) のリスク引当比率は依然高水準だった一方で、ロシアおよびチェコ共和国の 2013 年第 1 四半期のリスク引当比率は依然抑制されていた。

- **専門金融サービス部門**のリスク引当比率は、消費者金融事業および設備ファイナンス事業が好調で、113bp（前期：127bp）へ低下した。
- **コーポレート&インベストメント バンキング部門**の主力事業部門のリスク引当比率は 20bp（前期：44bp）と依然として低水準にあり、ローンポートフォリオの質の高さを実証するものであった。2013 年第 1 四半期のレガシー資産の引当金繰入純額は 3,500 万ユーロと、前期の 9,500 万ユーロを下回った。

2013 年 3 月末時点の当グループの不良債権引当率は 77%と、2012 年 12 月末と同じ水準であった。

2013 年第 1 四半期の**営業利益**は 9,400 万ユーロだった（前年同期：10 億 7,600 万ユーロ）。金融債務の再評価による影響を受け、営業利益は大幅減となった。

経済活動と関係ない項目および経常外項目、レガシー資産の影響の修正再表示後では、2013 年第 1 四半期の営業利益は 12 億 2,900 万ユーロ（前年同期：15 億 7,200 万ユーロ）だった。

当期純利益

以下を考慮した後の 2013 年第 1 四半期のグループ当期純利益は 3 億 6,400 万ユーロ（前年同期：7 億 3,200 万ユーロ）だった。

- 2013 年第 1 四半期に実施した子会社の売却に係る影響（特にエジプトの子会社 NSGB の売却で、税引き後で 3 億 7,700 万の利益）
- 所得税（当グループの 2013 年第 1 四半期の実効税率：22.0%、前年同期：27.4%）
- および非支配持分。

経済活動と関係ない項目および経常外項目、レガシー資産⁽¹⁾の影響の修正再表示後では、2013 年第 1 四半期のグループ当期純利益は 8 億 5,200 万ユーロ（前年同期：11 億 7,300 万ユーロ）だった。

経済活動と関係ない項目および経常外項目、レガシー資産の控除後の 2013 年第 1 四半期の当グループの ROE は 7.4%（絶対ベース：2.7%）だった。同様に、ROTE は 8.8%（絶対ベース：3.2%）だった。

超劣後債および永久劣後債⁽²⁾に係る支払利息の控除後では、2013 年第 1 四半期の一株当たり利益は 0.38 ユーロとなった。

⁽¹⁾ グループ当期純利益への影響総額：4 億 8,800 万ユーロの損失、うちレガシー資産：4,500 万ユーロの損失、金融債務の再評価：6 億 8,500 万ユーロの損失、売却：3 億 9,800 万ユーロの利益、国際財務報告基準（IFRS）第 13 号の適用：5,600 万ユーロの損失、訴訟問題に対する引当金：1 億ユーロの損失

⁽²⁾ 2013 年第 1 四半期に関しては、2013 年 3 月末時点の超劣後債および永久劣後債に係る税引き後支払利息はそれぞれ 6,500 万ユーロおよび 1,400 万ユーロ

2. グループの財務構造

2013年3月31日時点の当グループの**株主資本**は総額499億ユーロ⁽¹⁾、一株当たり有形純資産価値は48.27ユーロ（未実現キャピタルゲインの1.08ユーロを含む一株当たり純資産価値：56.54ユーロ）だった。当グループは2011年8月22日に締結した資産流動に関する契約に基づき、2013年第1四半期に820万株の自社株買いを実施すると共に、610万株を売却した。

2013年3月末時点で、ソシエテ ジェネラルはトレーディング目的の保有分を除き、合計で、株主資本の3.19%相当となる、2,490万株の自社株（900万株の金庫株を含む）を保有していた。また同時点において、当グループは従業員に付与するストックオプションを賄うために140万株の自社株購入オプションを保有していた。

2013年3月31日時点の、保険、デリバティブ残高、現先取引、調整勘定の控除後の**資金調達済バランスシート**⁽²⁾は総額6,550億ユーロと、2012年3月31日の水準から10.5%（280億ユーロ）増加したが、2012年12月31日時点との比較では0.5%増の横ばいだった。

当グループはバランスシート構造の強化を継続して行い、長期的な資金使途（売却可能/満期保有目的証券、顧客貸出、長期資産）に対する安定的な資金調達源（株主資本、顧客預金および中長期的な資金調達）の余剰額は2012年第1四半期の180億ユーロから2013年第1四半期には580億ユーロへ大幅に増加した。余剰額は2013年第1四半期のみで70億ユーロ増加しており、これは主に当グループの債券発行プログラムが成功した結果である。中長期的な資金調達額は前年同期比80億ユーロ増となり、これには2013年第1四半期の20億ユーロも含まれている。その結果、2013年第1四半期には総額134億ユーロ、平均満期期間5.7年の中期債（2013年の資金調達計画の三分の二相当）が発行された。株主資本（520億ユーロ）は2012年12月末比では横ばい、2012年第1四半期末比では10億ユーロ増となった。顧客預金総額は3,110億ユーロと、前年同期比では20億ユーロ増とほぼ安定しており、前期比では横ばいとなった。また同時に、当グループのレバレッジ削減策を受け、顧客貸出残高は前年同期比190億ユーロ減（2013年第1四半期に40億ユーロ減少）の3,650億ユーロとなった。その結果、預貸率は2012年3月末時点の125%から2013年3月末には117%と、前年同期比で8ポイント改善した。

また、当グループの流動性準備金は2012年12月末から20億ユーロ増加し1,350億ユーロとなった。流動性準備金は、2013年3月末時点の当グループの短期リファイナンスニーズの108%（2012年12月末：101%）をカバーしている。参考までに、2012年第1四半期の当グループの流動性準備金は1,040億ユーロで、短期資金調達ニーズの93%をカバーしていた。

当グループの**リスク調整後資産**は2013年3月末時点で3,202億ユーロと、前期比1.2%減および前年同期比8.3%減となった。2013年第1四半期の数値には、従来適用されていた免除制度の終了に伴う当グループの保険会社に係る残高55億ユーロも含まれている。この変更の修正再表示後では、残高は前期比2.9%減および前年同期比9.8%減となる。2013年第1四半期末時点では、リテールバンキング業務（フランス国内ネットワークおよび国際リテールバンキング、専門金融サービス&保険）が当グループのリスク調整後資産の62.7%を構成しており、保険の控除後では、前期比で安定している。

各事業部門の詳細な変動は、2010年に開始されたレバレッジの削減/厳格なリスク管理戦略を裏付けている：2013年第1四半期にリスク調整後資産は国際リテールバンキング部門では大幅減（9.1%減、子会社のNSGBの売却を反映）、プライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント&サービス部門および専門金融サービス部門（保険を除く）では安定、また、経済が停滞する中、フランス国内ネットワーク部門（保険を除く）においても安定していた。コーポレート&インベストメントバンキング部門の主力事業部門のリスク調整後資産は1.4%増加した。

⁽¹⁾ この数値には主に(i)53億ユーロの超劣後債および(ii)5億ユーロの永久劣後債が含まれる

⁽²⁾ 資金調達済バランスシート/グループの預貸率：詳細は財務情報の基準となる項目を参照

過去の数四半期と同様に、レガシー資産に関連するリスク調整後資産は、売却および償却により、2013 年第 1 四半期に前期比 19.4%減となった。全体では、2013 年 3 月末時点のこれらのリスク調整後資産は 79 億ユーロ、または当グループのリスク調整後資産総額の 2.5%と限られていた。

2013 年 3 月 31 日時点の当グループの Tier 1 比率は 12.4%（2012 年 12 月末：12.5%）となった。一方、「バーゼル 2.5」基準に基づき、欧州銀行監督機構（EBA）の規則に従い算出される**コア Tier 1 比率**は、当グループによる大幅な資本形成（+84bp）を相殺した、2013 年第 1 四半期における会計および規制の変更に伴う影響（-95bp）の考慮後では、2012 年 12 月末時点の 10.7%から 2013 年 3 月末には 10.6%となった。

特に、保険子会社の免除制度の終了により、コア Tier 1 比率は 69bp 低下し、また、国際会計基準（IAS）第 19 号の履行に伴う退職給付準備金の株主資本への統合は、コア Tier 1 比率を 17bp 押し下げた。最後に、国際財務報告基準（IFRS）第 13 号に基づく、デリバティブの信用リスクに関する評価の調整（信用評価調整：CVA）を考慮した結果、コア Tier 1 比率は 9bp 低下した。

信用評価調整と対照的で、銀行がコミットしているデリバティブに関する評価の調整である債務評価調整（DVA）（デリバティブに関連する金融債務が損益計算書に与える影響を測定）は、コア Tier 1 比率を算出する際には考慮されないため、配当可能利益の算出に含まれないことは留意すべきである。

2013 年第 1 四半期決算（CVA 効果および配当金引当金の控除後）はコア Tier 1 比率に +20bp 寄与し、また、レバレッジの削減（子会社の売却、レガシー資産ポートフォリオの売却および償却）はコア Tier 1 比率に +58bp 寄与した。2013 年第 1 四半期には、それ以外の累積的影響（為替、事業のリスク加重資産の削減等）は、コア Tier 1 比率に +6bp 寄与した。

2013 年第 1 四半期に、当グループは「バーゼル III」基準（自己資本指令（CRD）4 を適用）に基づくコア Tier 1 比率を発表した。2013 年第 1 四半期末時点のコア Tier 1 比率は 8.7%だった。当グループは 2013 年末までに、バーゼル III 基準に基づくコア Tier 1 比率（一時的な措置による恩恵の控除後）を 9.5%に近い水準にすることを目指している。予定されている様々な対策（株式支払配当、従業員向け増資、および現行の SSG のレバレッジ削減策）により、コア Tier 1 比率は 20bp 程度上昇する見通しである。コア Tier 1 比率の更なる強化は主に、堅固な収益力の継続によりもたらされる見通しである。

当グループはムーディーズより A2、S&P より A、フィッチより A+の格付けを付与されている。

3. フランス国内ネットワーク部門

単位：百万ユーロ	2012 年 第 1 四半期	2013 年 第 1 四半期	増減
業務粗利益	2,046	2,015	-1.5%
			-1.4%(a)
営業費用	(1,347)	(1,310)	-2.7%
営業総利益	699	705	+0.9%
			+1.3%(a)
引当金純繰入額	(203)	(301)	+48.3%
営業利益	496	404	-18.5%
当期純利益	326	256	-21.5%

(a) PEL/CEL 関連控除後

フランス国内は依然、マクロ経済環境の悪化が続いたが、2013年第1四半期の**フランス国内ネットワーク部門**の事業活動は堅調に推移し、前回に続いて顧客基盤の底堅さを実証した。

預金獲得をめぐる熾烈な競争環境が続く中、預金残高は前年同期比9.2%増の1,492億ユーロとなった。顧客セグメント別では、個人顧客の預金受入高がきわめて好調に推移し（8.1%増）、法人顧客も大幅な増加をみた（10.4%増）。貯蓄の種類別では、定期預金と預金証書の新規受入高（37.2%増）が預金の伸びをけん引した。特に、大企業および中小企業向けの「CAT Croissance」（複利定期口座）および「CAT Trésor +」（国債＋定期口座）商品の成功が引き続き寄与した。規制貯蓄も大幅に増加した。引き続き貢献度が高かったのは、まず、上限引き上げが寄与したLivret A（通帳預金口座）（残高32.2%増）と「持続可能開発通帳預金口座」（残高25.0%増）、次いで「通帳預金口座」（残高7.1%増）の伸びだった。要求払い預金は前年同期比横ばいだった（0.5%増）。

2013年第1四半期はこの預金残高の伸びに加え、生命保険市場が再び正味流入となる中（前年同期比67億ユーロの正味流入）、当部門の生命保険業務は8億2,200万ユーロの正味流入となった。

フランス国内ネットワーク部門は、企業と個人のプロジェクトの資金調達を支援し、引き続き顧客に資する強い姿勢を示し、積極的に経済を支えた。しかしながら、先行き不透明な経済環境の中、貸出残高の低い伸びにあらわれているように（前年同期比0.7%増の1,763億ユーロ）、資金需要は依然低調だった。

法人顧客向けの貸出残高は795億ユーロだった（0.6%増）。営業ローン残高が7.3%増の132億ユーロだったのに対し、投資ローン残高は1.0%減の633億ユーロだった。

個人向けの貸出残高は、引き続き住宅ローン残高の伸び（1.4%増）に支えられ、前年同期比1.1%増の955億ユーロとなった。しかし、住宅ローンの新規組成は、需要減退を背景に前年同期から大きく落ち込んだ。

2013年第1四半期の平均預貸率は118%で、前年同期の128%から10ポイント改善した。

収益面では当部門は堅調に推移し、業務粗利益は20億1,500万ユーロと、PEL/CEL関連の影響を除いて前年同期からわずかに減少した（1.4%減）。再投資金利の低下の影響が預金残高の増加と貸出利ざやの上昇（前年同期比10bpの上昇）によって相殺され、利ざやは前年同期比0.2%拡大した（PEL/CEL関連の影響を除く）。

手数料は前年同期比3.4%減少した。サービス手数料は同2.6%の減少だった。金融手数料は、個人顧客の金融取引取扱高が依然低調だったため6.4%減少した。

2013年第1四半期の営業費用は、経費削減計画の実施効果により前年同期比2.7%減少した。経費削減の中心は効率性の向上、IT費用の抑制、外部サービス業者の利用低下だった。

当部門の営業総利益は、前年同期比1.3%増の7億500万ユーロだった（PEL/CEL関連控除後）。

低調なフランス経済を背景に、2013年第1四半期の当部門のリスク引当比率は65bpと前期並みだった。

2013年第1四半期のフランス国内ネットワーク部門のグループ当期純利益への寄与は、前年同期比21.5%減の2億5,600万ユーロだった。

4. 国際リテール バンキング部門

単位：百万ユーロ	2012 年 第 1 四半期	2013 年 第 1 四半期	増減
業務粗利益	1,226	1,131	-7.7%
比較可能ベース*			-1.3%
営業費用	(758)	(698)	-7.9%
比較可能ベース*			+0.5%
営業総利益	468	433	-7.5%
比較可能ベース*			-4.1%
引当金純繰入額	(350)	(273)	-22.0%
営業利益	118	160	+35.6%
比較可能ベース*			-21.3%
当期純利益	45	79	+75.6%

国際リテール バンキング部門の2013年第1四半期は、低金利、景気減速という状況下で健全な営業成績を達成した。2013年3月末時点の当部門の貸出残高は（エジプト⁽¹⁾を除く）、主に個人向けの伸び（8.9%*増）を背景に前年同期比3.7%*増の626億ユーロとなった。預金残高は（エジプトを除く）、ロシア（13.5%*増）、中・東欧諸国（13.4%*増）、サハラ以南のアフリカ（12.4%*増）の堅調な新規受入高の伸びを追い風に大幅に増加し（7.1%*増）、641億ユーロとなった。その結果、預貸率は2012年12月末から3ポイント改善して98%となった。

しかし、このプラスの数量効果は、当部門の営業地域である主要欧州諸国の低金利環境によってほぼ消滅した。2013年第1四半期の当部門の**業務粗利益**は、前年同期比1.3%*減の11億3,100万ユーロとなった。業績は地域による違いが際立つ結果となった。収益面では、ロシア、地中海沿岸地域、サハラ以南のアフリカは増収を記録したが、ルーマニア、チェコ共和国、およびその他の中・東欧諸国では減収となった。

2013年第1四半期のコストは、ロシア、ルーマニア、チェコ共和国、その他の中・東欧諸国で**営業費用**が目立って減少し、全体によく抑制されたことから、0.5%*の小幅増加となった（総額は6億9,800万ユーロ）。サハラ以南のアフリカと地中海沿岸地域では、年間29支店の増設による支店網の拡大に伴い、営業費用が増加した。

2013年3月末の当部門の営業総利益は4億3,300万ユーロだった（4.1%*減）。経費率は61.7%と、前年同期に比べてわずかに改善した。

国際リテール バンキング部門の2013年第1四半期の**グループ当期純利益への寄与**は、7,900万ユーロだった。

ロシアでは（ロスバンク、デルタクレジットおよびその国際リテール バンキング部門の連結子会社、およびラスファイナンスの 25%を含む）、過去数四半期の改善傾向がさらに強まった。業務粗利益は 13.9%*⁽²⁾増加した。2012 年に導入した事業効率の改善策（支店の合理化、人員削減）が奏功し、高インフレにもかかわらずコスト基盤は大幅に縮小した（前年同期比 4.4%*減）。2013 年第 1 四半期のグループ当期純利益への寄与は、1,900 万ユーロのプラス寄与となった（前年同期は 2,000 万ユーロのマイナス寄与）。

⁽¹⁾ 当グループは 2013 年 3 月 26 日、傘下のエジプト子会社の NSGB を QNB に売却した。NSGB の収益は国際リテール バンキング部門の収益（2013 年の 2 カ月の実績）に含まれるが、各種残高は会計上、2012 年末以降「売却目的保有資産」に再分類されている。NSGB の売却益はコーポレートセンターの決算に計上されている。

⁽²⁾ 2012 年末現在、ベルロスバンク（ベラルーシ）およびロスバンクの債権回収子会社である AVD は、グループの事業見直しの一環として売却された。

全体として、顧客ポートフォリオの不均衡は正とロスバンクの債券発行の成功（2013 年の調達額は 310 億ロシア・ルーブル、ユーロ建てでは 7 億 7,500 万ユーロ）がバランスシートの強化に役立った。

個人顧客については、特にルーブル建てローンの好調な伸び（ロスバンクで 28%*増）により、貸出残高は大幅に拡大した（前年同期比 21.5%*増）。同様に預金の新規受入高も堅調だった（ロスバンクのルーブル建て預金関連の 11%*増を含め、7.3%*増）。

法人顧客については、貸出残高は前年同期比横ばいとなり、2012 年の減少分を一掃した。このトレンドの転換は、主にルーブル建てローン（残高は 21%*増）を重視する新規事業の好調を反映したもの。また、預金残高も前年同期比 17.7%*増加した。

2010 年以降の事業見直しと新規事業計画の実施と併行して、異なるロシアの事業体間およびグループの事業ライン間のシナジー、特にコーポレート&インベストメント バンキング部門とのシナジーが進んでいる。2013 年第 1 四半期に当グループは、石油業界の大型買収案件であるロスネフトの TNK-BP 買収（総額 560 億米ドル）の資金調達で、共同主幹事（MLA; Mandated Lead Arranger）およびブックランナーを務めた。また 2013 年の当初 4 カ月間にソシエテ ジェネラルは 17 件、総額 75 億ユーロの債券発行に携わった。さらに、発行国通貨払い債券の発行ではロシアで第 3 位にランクされた（ディーロジック調べ）。全体として SG ロシア⁽¹⁾の事業は、2013 年第 1 四半期のグループ当期純利益に 3,900 万ユーロのプラス寄与をした。

チェコ共和国では経済環境が悪化する中、コメルチニ バンカ（KB）の 2013 年第 1 四半期の事業活動は好調だった。貸出残高は、法人顧客に支えられて前年同期比 5.3%*増加した。また、預金残高も同 6.4%*増加した。こうした数量増効果にもかかわらず、預金利ざやの持続的な低下と前年同期に計上したキャピタルゲイン益の反動により、業務粗利益は前年同期から減少した（6.5%*減）。とはいえ、KB はそのコスト管理能力の高さを改めて示した（1.6%*減）。2013 年第 1 四半期のグループ当期純利益への寄与は 5,100 万ユーロと、景気減速に強い KB の底堅さを浮き彫りにした。

ルーマニア（BRD）では、経済環境の悪化を背景に貸出残高が減少した（2.6%*減）。個人顧客セグメント、特に住宅ローンが伸びたものの、法人セグメントの落ち込みを相殺するには至らなかった。一方、預金基盤は強化された（2.9%*増）。業務粗利益は、数量減に利ざやへの継続的圧迫が重なり、前年同期比で減少した（4.5%*減）。しかし、BRD が事業基盤の合理化（人員、支店数の削減）を進めたため、急激なインフレ上昇にもかかわらず、経費は前年同期比 2.5%*減少した。引当金繰入純額は依然、高水準だが、リスクテキングを厳しく抑制する対策をとったことにより、2012 年第 4 四半期比で減少した。全体として、2013 年第 1 四半期の BRD のグループ当期純利益への寄与は、500 万ユーロのマイナス寄与となった（前年同期は 300 万ユーロのマイナス寄与）。

その他の中・東欧諸国では、法人顧客を中心に預金の新規受入高が引き続き好調だった（前年同期比 13.4%*増）一方、貸出業務は同横ばいだった（0.4%*増）。全体として業務粗利益は 3.8%*減少した。ユーリポー（欧州銀行間取引金利）の低下と預金コストの増加を背景とするローン報酬の減少が響いた。コストは前年同期比横ばい（0.1%*減）だった。この地域の営業総利益は 3,600 万ユーロだった。

地中海沿岸地域では、2013 年 3 月末時点の預金残高が前年同期比 4.8%*増加した。特にアルジェリアが好調だった（24%*増）。対照的に、貸出残高は前年同期から小幅の伸びにとどまった（0.7%*増）。業務粗利益は前年同期比 2.5%*増加し、部門傘下の全企業が増収となった。営業費用は、営業網の拡大（年間 6 支店の開設）と地元の高インフレに伴い、業務粗利益を上回るペースで増加した（12.7%*増）。2013 年第 1 四半期のグループ当期純利益への寄与は 4,100 万ユーロだった。

サハラ以南のアフリカでは前年同期から新たに 23 支店が加わり、営業網が拡大した。2013 年年初は事業活動が活発だった。貸出残高が個人顧客向けの大幅な伸び（24.3%*増）を追い風に前年同期比 6.3%*増加した一方、預金残高も 12.4%*の堅調な伸びを記録した。この勢いを受け、業務粗利益は前年同期比 11.9%*、営業費用も同 10.1%*それぞれ増加した。

⁽¹⁾ SG ロシアの業績：ロスバンク、デルタクレジットバンク、ラスファイナンスバンク、ソシエテ ジェネラル インシュアランス、ALD オートモーティブ、およびそれらの連結子会社の当事業業績への寄与

5. 専門金融サービス&保険部門

単位：百万ユーロ	2012 年 第 1 四半期	2013 年 第 1 四半期	増減
業務粗利益	849	868	+2.2%
比較可能ベース*			+2.9%
営業費用	(455)	(442)	-2.9%
比較可能ベース*			-1.1%
営業総利益	394	426	+8.1%
比較可能ベース*			+7.5%
引当金繰入額	(166)	(155)	-6.6%
営業利益	228	271	+18.9%
比較可能ベース*			+15.9%
当期純利益	163	192	+17.8%

専門金融サービス&保険部門は以下の事業により構成されている。

- (i) 専門金融サービス事業（車両オペレーショナルリース・車両管理、設備ファイナンス、消費者金融）
- (ii) 保険事業（生命保険、人的損害賠償保険、物的損害賠償保険）

2013 年第 1 四半期の専門金融サービス&保険部門は、資源の節約に沿ったビジネスモデルの適合理化を引き続き進めながら、良好な業績を維持し、グループ当期利益は前年同期比 17.8%*増の 1 億 9,200 万ユーロとなった。

自動車セクターにとっては厳しい市場環境となったものの、**車両オペレーショナルリース・車両管理事業**は健全な業容拡大を達成しており、管理車両台数は 962,000 台以上の水準（2012 年 3 月末比 4.4%⁽¹⁾増）に増加し、2009 年以来的残余価値の積極的な管理からの恩恵を享受した。

選別戦略を背景に、**設備ファイナンス事業**の新規契約高（ファクタリングを除く）は前年同期比 6.6%*減の 15 億ユーロとなった。新規契約の利ざやは高水準で維持された。2013 年 3 月末時点の契約残高（ファクタリングを除く）は 2012 年 3 月末比 4.3%*減の 174 億ユーロとなった。当事業は、外部資金調達調達の拡大（2013 年 2 月にドイツで 5 億ユーロの債務の証券化を実施）を中心に引き続き事業モデルの適合理化を進めながら、主要市場で築いた堅固な地位を維持した。

消費者金融事業は回復基調にあることを再度実証しており、海外ネットワークの重点地域の見直し、およびリスクと収益特性を改善させる事業への資源再配分等の 2011 年から進めてきた改善策の恩恵を享受した。新規貸出高は当四半期を通じて 24 億ユーロの水準で安定推移した。消費者金融貸出残高は 2012 年 3 月末比 2.7%*減の 218 億ユーロとなった。

当部門は様々な外部資金調達業務を展開させ、2013 年第 1 四半期は 11 億ユーロの追加的な外部資金調達を行った。2012 年通期は総額 42 億ユーロの外部資金調達が行われた。

2013 年第 1 四半期の**専門金融サービス事業**の業務粗利益は前年同期比ほぼ横ばいの 6 億 8,500 万ユーロとなった。営業費用は前年同期比 1.8%*減の 3 億 7,500 万ユーロに低下した。引当金繰入純額は 2012 年第 1 四半期の 1 億 6,600 万ユーロ（121bp）に対し、1 億 5,500 万ユーロ（113bp）に減少した。営業利益は前年同期比 15.1%*増の 1 億 5,500 万ユーロとなった。

⁽¹⁾グループ編成変更の影響の控除後

2013 年第 1 四半期の**保険事業**はフランス内外で良好な業績を示した。生命保険の純資金流入は 13 億ユーロとなり、2013 年 3 月末時点の契約残高は 2012 年 3 月末比 5.9%*増の 813 億ユーロに拡大した。人的損害賠償保険事業と物的損害賠償保険事業の受取保険収入はそれぞれ前年同期比 38.9%*と 21.9%*の増加となった。

保険部門の業務粗利益は前年同期比 11.5%* 増の 1 億 8,300 万ユーロとなり、一方で営業費用の伸び率は 3.0%*に抑制された。営業利益は前年同期比 17.0%* 増の 1 億 1,600 万ユーロに拡大した。

6. コーポレート&インベストメント バンキング部門

単位：百万ユーロ	2012 年 第 1 四半期	2013 年 第 1 四半期	増減
業務粗利益	1,867	1,904	+2.0%
比較可能ベース*			+3.0%
うちファイナンス&アドバイザリー	276	475	+72.1%
比較可能ベース*			+73.4%
うちグローバル マーケッツ ⁽¹⁾	1,648	1,439	-12.7%
比較可能ベース*			-11.8%
うちレガシー資産	(57)	(10)	+82.5%
営業費用	(1,220)	(1,161)	-4.8%
比較可能ベース*			-4.0%
営業総利益	647	743	+14.8%
比較可能ベース*			+16.3%
引当金繰入純額	(153)	(74)	-51.6%
うちレガシー資産	(115)	(35)	-69.6%
営業利益	494	669	+35.4%
比較可能ベース*			+37.7%
当期純利益	351	494	+40.7%

(1) うち「エクイティ」は2013年第1四半期に6億8,500万ユーロ（前年同期：6億5,500万ユーロ）、「債券・為替・コモディティ」は同7億5,400万ユーロ（前年同期：9億9,300万ユーロ）

2012 年末からの流れを引き継ぎ、2013 年第 1 四半期当初はユーロ圏の金融危機がいったん和らぎ、市場は上昇した。その後、イタリアの総選挙、3 月のキプロス危機を受けて投資家のリスク選好度が低下し、状況は悪化した。

こうした中、コーポレート&インベストメント バンキング部門の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は、前年同期比 2.0%増の 19 億 400 万ユーロとなった。CVA/DVA の影響（2013 年第 1 四半期に 6,400 万ユーロのマイナス）、および貸出金売却に伴う正味割引額（2012 年第 1 四半期に 2 億 2,600 万ユーロのマイナス）の修正再表示後では 6.0%減だった。

グローバルマーケッツ業務は、CVA/DVA の影響（2013 年第 1 四半期に 7,500 万ユーロのマイナス）を除く業務粗利益が 15 億 1,400 万ユーロの底堅い水準となった。ただ、前年同期が良好な市場環境を追い風に好調だったため、その反動で 2013 年第 1 四半期は 7.2%⁽¹⁾の減少となった。収益のけん引役は、すべての地域で好業績を記録したストラクチャード商品である。2013 年第 1 四半期は市場リスクのエクスポージャーが低水準にとどまった。

エクイティ業務の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は、CVA/DVA の影響（2013 年第 1 四半期に 5,000 万ユーロのマイナス）を除くと前年同期比 11.9%⁽¹⁾増の 7 億 3,500 万ユーロだった。ストラク

⁽¹⁾ グループ編成変更による影響の控除後

チャード商品を中心にアジアで数量が伸びたことに加え、エクイティファイナンスなどフロー業務の業績が収益をけん引した。SG CIB は「株式デリバティブ・ハウス・オブ・ザ・イヤー」（リスクアワード 2013）に選ばれたほか、特にワラント市場で 14.5%のシェアを獲得し、株式デリバティブ首位の座を維持した。また、リクソーの運用資産残高は 2013 年第 1 四半期末現在 753 億ユーロで、2012 年末から安定している。リクソーのマネージドアカウント・プラットフォームは再び賞を受賞し、ヘッジファンド・ジャーナル・アワード 2013 から「リーディング・マネージドアカウント・プラットフォーム」に選ばれた。

債券・為替・コモディティ業務の 2013 年第 1 四半期の業務粗利益は、CVA/DVA の影響（2013 年第 1 四半期に 2,500 万ユーロのマイナス）を除き、前年同期比 20.1%⁽¹⁾減の 7 億 7,900 万ユーロだった。市場の正常化を追い風に良好な業績となった前年同期との比較であることも影響した。2013 年第 1 四半期は、顧客主導の市場活動、特にストラクチャード商品の底堅さが実証された。金利、クレジット業務は堅調だったが、為替、コモディティ業務は出遅れた。SG CIB は、「アジア・リスク・インターディーラー・ランキング 2013」で首位、「金利商品」カテゴリーで首位にランクされるなど、アジアの顧客から改めてその専門性の高さが評価された。

ファイナンス&アドバイザリー事業の業務粗利益は、CVA/DVA の影響（2013 年第 1 四半期に 1,100 万ユーロのプラス）を除くと 4 億 6,400 万ユーロだった。これは、貸出金処分計画のマイナス影響が強かった 2012 年第 1 四半期からは大幅な増加である。CVA/DVA の影響、および貸出金売却に伴う正味割引額（2012 年第 1 四半期に 2 億 2,600 万ユーロのマイナス）を除いた業務粗利益は、特に 2012 年の事業見直し後の経常的収益の消失を受け、10.4%⁽¹⁾減少した。ストラクチャード・ファイナンス業務は、着実な事業基盤（天然資源、輸出、インフラ関連のファイナンス）に支えられて業績を上げた。キャピタルマーケット業務は、債券発行とレバレッジド・ファイナンスの業績が好調だったものの、株式発行と M&A は欧州の出来高不振に苦しんだ。SG CIB は 2013 年第 1 四半期も多くの代表的案件に参加した。これには、「オリジネーションからディストリビューションまで」のモデル構築の一環であるタイ航空の第 4 次エアバス A380 の資金調達などがある。この案件は資金の全額を外部の投資家から調達した。また、SG CIB は、ヴェオリア・エンバイロメントからグローバル・コーディネーターとして委託され、それぞれ 10 億ユーロ、4 億ポンドの 2 つのトランシェによるハイブリッド発行の共同幹事を務めた。2013 年 2 月、SG CIB は、ユーロウィークから「ベスト・アレncy・オブ・プロジェクト・ファイナンス・ローン」に選ばれた。最後に、SG CIB はユーロ債発行で第 2 位、金融機関および政府向けユーロ債発行で第 2 位、フランス国内の株式および株式関連発行で首位に立つなど（トムソン・ロイター-IFR、2013 年 3 月末時点のランキング）、債券・株式資本市場での地位はさらに高まっている。

レガシー資産は、2013 年第 1 四半期の業務粗利益にほとんど影響を与えなかった（2012 年第 1 四半期の 5,700 万ユーロのマイナス寄与に対して、2013 年第 1 四半期は 1,000 万ユーロのマイナス寄与）。

2013 年第 1 四半期の**営業費用**は前年同期比 4.0%*減少し、2011 年末に導入した人員削減およびコスト調整計画の効果をさらに示す形となった。2011 年第 1 四半期比では 12%も減少した。2013 年第 1 四半期の経費率は前年同期比 4 ポイント低下の 61.0%となった。

2013 年第 1 四半期の当部門主力業務の**リスク引当比率**は、ポートフォリオの質を反映して依然、低水準だった（2012 年第 4 四半期の 44bp に対して 20bp）。レガシー資産の引当金繰入純額は、2012 年第 1 四半期の 1 億 1,500 万ユーロに対して 3,500 万ユーロと、引き続き抑制された。

コーポレート&インベストメント バンキング部門の 2013 年第 1 四半期のグループ当期純利益への寄与は、前年同期の 3 億 5,100 万ユーロから 40.7%増の 4 億 9,400 万ユーロだった。2013 年第 1 四半期の CVA/DVA の影響の修正再表示後、および 2012 年第 1 四半期の貸出金売却に伴う正味割引額を除くと、寄与は前年同期比 6.7%増だった。

7.プライベートバンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門

⁽¹⁾ グループ編成変更による影響の控除後

単位：百万ユーロ	2012 年 第 1 四半期	2013 年 第 1 四半期	増減
銀行業務純益	553	457	-17.4%
比較可能ベース*			-3.0%
営業費用	(484)	(397)	-18.0%
比較可能ベース*			-2.0%
営業利益	61	62	+1.6%
比較可能ベース*			+6.8%
当期純利益	81	73	-9.9%
うちプライベートバンキング	36	43	+19.4%
うちアセットマネジメント	37	26	-29.7%
うち SG SS およびブローカー	8	4	-50.0%

プライベートバンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門は、以下の 4 事業により構成されている。

- (i) プライベートバンキング事業（ソシエテジェネラルプライベートバンキング）
- (ii) アセットマネジメント事業（アムンディ、TCW⁽¹⁾）
- (iii) ソシエテジェネラル セキュリティーズ サービス事業（SGSS）
- (iv) ブローカー事業（ニューエッジ）

2013 年第 1 四半期のプライベートバンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門は TCW の売却を実行させる一方で、その事業活動は明るい兆しを示し、グループ当期純利益への寄与は、2012 年第 1 四半期を下回ったものの(8.8%*減)、2012 年第 4 四半期を上回る 7,300 万ユーロとなった。

2013 年第 1 四半期の業務粗利益は前年同期比 3.0%*減の 4 億 5,700 万ユーロだった。一方で営業費用は 2.0%*減の 3 億 9,700 万ユーロに低下した。営業効率の改善努力からの恩恵を引き続き享受した。営業総利益は前年同期を 9.0%*下回る 6,000 万ユーロであった。

プライベートバンキング事業

プライベートバンキング事業は再びその回復を実証した。2013 年 3 月末の運用資産残高は 2012 年 12 月末比 2.2%増の 879 億ユーロに達した。この運用資産残高は、3 億ユーロの資金流入、37 億ユーロのプラスの「市場」効果、マイナス 22 億ユーロの「為替」効果を織り込んでいる。主にマクロ経済環境に対する顧客の見方が改善したことを追い風に当事業の収益は回復基調で推移し、手数料収入と利ざやの拡大を中心に前年同期比 4.6%*増の 2 億 600 万ユーロとなった。当事業の業務粗利益率は 2012 年第 4 四半期を 2bp 上回る 95bp に上昇した。一方で営業費用は前年同期比 7.6%*増の 1 億 5,500 万ユーロに膨らんだ。

営業総利益は 5,100 万ユーロ（前年同期：5,200 万ユーロ）となった。また、当事業のグループ当期純利益への寄与は 4,300 万ユーロ（前年同期：3,600 万ユーロ）に改善した。当事業は再度「ベストウェルス プランニング チーム アット ア ヨーロピアン ベスト プライベートバンク」（ウェルスブリーフィング アワーズ 2013、2013 年 5 月 2 日）を受賞した。

ソシエテ ジェネラル セキュリティーズ サービス事業（SGSS）、ブローカー事業（ニューエッジ）

⁽¹⁾ 2012 年第 3 四半期に発表された TCW の売却は 2013 年第 1 四半期に実行した。

2013 年第 1 四半期のセキュリティーズ サービス事業は健全な伸びを示し、2013 年 3 月末時点の預かり資産残高と管理資産残高は 2012 年 3 月末比 4%増の 3 兆 4,930 億ユーロ、同 12%増の 4,790 億ユーロにそれぞれ拡大した。

当事業はグローバルインベスター/ISF 誌が行った 2013 年のサブカストディ サービスにおいて、ロシア、チェコ共和国、クロアチア、ポーランドで 1 位を獲得した。

市場全体の出来高がわずかな回復を示す中、ニューエッジは 2013 年第 1 四半期も 11.8%の高い市場シェアを維持した。

2013 年第 1 四半期のセキュリティーズサービス事業の収益は微減（前年同期比 1.3%*減）に留まったが、再編計画下のニューエッジの収益は大幅に減少した。当事業の収益は 2 億 4,300 万ユーロであった。進行中の営業効率の改善策が奏功し、両事業の営業費用はそれぞれ 4.1%*と 10.7%*の減少となり、営業費用の合計額は 2012 年第 1 四半期の 2 億 5,200 万ユーロに対し 2 億 3,400 万ユーロとなった。ニューエッジの業績低下が響き、営業総利益は 900 万ユーロ（前年同期：1,600 万ユーロ）に減少し、グループ当期純利益への寄与は前年同期の 800 万ユーロから 400 万ユーロへと縮小した。

アセット マネジメント事業

TCW の売却は 2013 年第 1 四半期に実行した。主に従業員貯蓄事業に関連する費用と収益から構成されるアセットマネジメント事業の営業総利益は横ばいとなった。

アムンディの 2013 年第 1 四半期の寄与は、2012 年第 1 四半期の 3,700 万ユーロに対し 2,600 万ユーロとなった。

8. コーポレート センター

単位：百万ユーロ	2012 年 第 1 四半期	2013 年 第 1 四半期	増減
業務粗利益	(230)	(1,287)	NM
比較可能ベース*			NM
営業費用	(69)	(59)	-14.5%
比較可能ベース*			-14.5%
営業総利益	(299)	(1,346)	NM
比較可能ベース*			NM
引当金繰入額	(22)	(126)	X5.7
営業利益	(321)	(1,472)	NM
比較可能ベース*			NM
当期純利益	(234)	(730)	NM

コーポレートセンターには以下の項目が含まれる。

- グループの不動産ポートフォリオ、オフィス、その他の土地建物
- 銀行株および産業株の株式ポートフォリオ
- グループの財務機能、部門横断的なプロジェクトに関連する特定の費用、リインボイスされないグループの特定費用

コーポレートセンターの業務粗利益の中で、特にグループの金融債務の再評価額が2013年第1四半期は10億4,500万ユーロの損失（前年同期：1億8,100万ユーロの損失）を計上した。

第1四半期の営業費用は前年同期の6,900万ユーロに対して5,900万ユーロとなった。

引当金繰入純額は、業務訴訟問題に係る1億ユーロの追加的な引当金積み増しを含んでおり、2012年の2,200万ユーロに対し1億2,600万ユーロとなった。

最後に、2013年第1四半期のコーポレートセンターはNSGBの売却に関連する利益を計上しており、売却益は税引き前で4億1,700万ユーロ、税引き後で3億7,700万ユーロだった。

2013年第1四半期のコーポレートセンターの当期純損益は前年同期の2億3,400万ユーロの損失に対して7億3,000万ユーロの損失となった。経済活動と関係ない項目および経常外項目**を修正再表示した2013年第1四半期のグループ当期純利益への寄与は3億4,300万ユーロのマイナス寄与となった。

9. 結論

2013 年第1 四半期のグループ当期純利益は8 億5,200 万ユーロ**となり、ソシエテジェネラルは再びその適合能力を立証した。当グループの事業は全ての市場で築き上げた強固な業務基盤、堅固な顧客ポートフォリオ、底堅い経常収益を裏打ちする厳密なリスク管理に支えられている。中期的に収益性を一段と高めるために、当グループは（2012年から実施した）変革計画の第2ステージに乗り出し、2012年～2015年の期間中に14億5,000万ユーロの経費削減を目指す計画を打ち出した。この計画は、組織構造の簡素化、営業費用の最適化、部門間シナジーなどを通じて達成される見通しである。健全で安定的なバランスシートを背景に、「バーゼルIII」基準を既に満たしている状況にあることで、ソシエテジェネラルは、「バーゼルIII」基準による9.5%に近いコアTier1比率の目標を2013年末までに達成する能力を実証しており、一方で、顧客サービスを提供する上で業界のベンチマークとなるリレーションシップバンクモデルの展開も進めている。

新たな経済・規制環境に適合させた事業を下支えに、グループはこのような変革を通じて、2015年末までにROE10%を達成する見通しである。

2013 年の財務情報開示日程

2013 年 5 月 22 日	年次総会
2013 年 8 月 1 日	2013 年第 2 四半期の発表
2013 年 11 月 7 日	2013 年第 3 四半期の発表

本文書にはソシエテジェネラルグループの目標・戦略に関する予測・意見が含まれています。これらの予測は、一般事項と特別事項（特別の定めのない限り、主に、欧州連合が採択している国際財務報告基準（IFRS）に準拠した会計原則・方法の適用、および既存のブルデンシャル規制の適用）の両方を含む、一連の前提に基づいています。

本情報は、特定の競争・規制環境下における複数の経済前提に基づくシナリオに則して作成されました。

当グループは以下を行うことができない場合があります。

- 当グループの事業に影響をもたらす可能性のある全てのリスク、不透明要因またはその他要因を予測すること、およびそれらが当グループの業務に与える可能性のある影響を評価すること。
- リスクまたは複合リスクにより、実際の業績が本プレスリリースに記載されている予測とどの程度異なるかを正確に判断すること。

これらの予測は実現しない可能性があります。投資家の皆様におかれましては、本文書が提供する情報に基づいて投資上の決定をされる際には、当グループの業績に影響をもたらす可能性のある不透明要因やリスク要因を考慮されるようお勧めします。

特に明記しない限り、ランキングは内部資料によるものです。

付属書類 1 : グループの主要指標 – 2013 年第 1 四半期

1) 連結損益計算書

(単位 : 百万ユーロ)	第 1 四半期			
	2012 年	2013 年	増減(%)	
業務粗利益	6,311	5,088	-19.4	-16.7*
営業費用	(4,333)	(4,067)	-6.1	-2.5*
営業総利益	1,978	1,021	-48.4	-47.8*
引当金繰入純額	(902)	(927)	+2.8	+17.5*
営業利益	1,076	94	-91.3	-94.7*
固定資産売却益	15	448	X29.9	
持分法適用会社純利益	47	39	-17.0	
連結調整勘定償却	0	0	NM	
法人税	(299)	(119)	-60.2	
少数株主持分控除前当期純利益	839	462	-44.9	
非支配持分損益	107	98	-8.4	
当期純利益	732	364	-50.3	-56.3*
年率換算グループ ROTE(%)	7.9%	3.2%		
Tier 1 自己資本比率	11.1%	12.4%		

(*) グループの組織変更に伴う調整と固定為替レートに基づく

2) 主要部門別税引後純利益

(単位 : 百万ユーロ)	第 1 四半期		
	2012 年	2013 年	増減(%)
フランス国内ネットワーク	326	256	-21.5
国際リテールバンキング	45	79	+75.6
コーポレート&インベストメントバンキング部門	351	494	+40.7
専門金融サービス&保険	163	192	+17.8
プライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント&サービス	81	73	-9.9
プライベートバンキング	36	43	+19.4
アセットマネジメント	37	26	-29.7
SGSS&ブローカー	8	4	-50.0
主力事業部門	966	1,094	+13.3
コーポレートセンター部門	(234)	(730)	NM
グループ合計	732	364	-50.3

3) 連結貸借対照表

資産 (単位：十億ユーロ)	2013 年 3 月 31 日	2012 年 12 月 31 日	増減 (%)
現金および中央銀行預け金	53.2	67.6	-21
損益勘定を通じて公正価値で測定された金融資産	479.3	484.0	-1
ヘッジ目的デリバティブ	14.9	15.9	-6
売却可能金融資産	128.9	127.7	+1
銀行預け金	101.6	77.2	+32
顧客貸出金	349.6	350.2	0
リース債権および類似契約	28.4	28.7	-1
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	4.1	4.4	-7
満期保有目的金融資産	1.1	1.2	-7
税金資産およびその他の資産	60.5	59.7	+1
売却目的保有非流動資産	0.0	9.4	-100
繰延利益配分	0.0	0.0	NM
有形および無形固定資産その他	24.7	24.7	0
資産の部合計	1,246.3	1,250.7	0

負債 (単位：十億ユーロ)	2013 年 3 月 31 日	2012 年 12 月 31 日	増減 (%)
中央銀行預金	2.9	2.4	+20
損益勘定を通じて公正価値で測定された金融負債	411.5	411.4	0
ヘッジ目的デリバティブ	12.9	14.0	-8
銀行預金	120.3	122.0	-1
顧客預金	336.4	337.2	0
証券形態の債務	136.0	135.7	0
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	6.0	6.5	-8
税金負債およびその他の負債	62.5	59.4	+5
売却目的保有非流動負債	0.0	7.3	-100
保険会社の責任準備金	93.3	90.8	+3
引当金繰入純額	3.6	2.8	+29
劣後債務	7.0	7.1	-1
株主資本	49.9	49.8	0
非支配持分	4.0	4.3	-6
負債合計	1,246.3	1,250.7	0

付属書類 2：財務情報の基準となる事項

1- 2013 年 3 月 31 日に終了した当グループの連結決算は、2013 年 5 月 6 日の取締役会において承認された。

2013 年第 1 四半期に関する財務情報は、この日付において適用されている、欧州連合が採択しており、国際財務報告基準（IFRS）に準拠した方法により作成されている。本財務情報は、国際会計基準（IAS）第 34 号「中間財務報告」により定められている中間財務報告を構成するものではなく、また、監査も受けていない。ソシエテ ジェネラルの経営陣は、2013 年 6 月 30 日に終了する 6 カ月の期間に関しては、連結中間財務諸表を公表する予定である。

2- **グループ ROE** は、IFRS 基準によるグループの平均株主資本に基づいており、(i)株主資本の部に直接計上された未実現または繰り延べキャピタルゲインもしくはキャピタルロス（転換準備金を除く）、(ii)超劣後債、(iii)株主資本として認識された永久劣後債、を除外し、(iv)超劣後債および修正再表示された永久劣後債に係る支払利息を控除したうえで算出している。また、ROEの算出に使用したグループ当期純利益は、超劣後債に係る当期分の税引き後支払利息、および2006年以降は、超劣後債および修正再表示された永久劣後債に係る税引き後支払利息（2013年3月末は7,900万ユーロ）を除外したものである。

2012 年 1 月 1 日より、事業間の資本配分では期初時点で 9%のリスクウェイトを適用する（従来は 7%）。それに伴い、既に公表された四半期情報の配分資本に関連するデータの修正を実施した。同時に、標準的資本報酬率は各事業の過去の収益に対する複合効果が中立的になるよう調整した。

3- **普通株 1 株当たり利益**を算出する上で、「グループ当期純利益」を以下の項目に係る税引き後支払利息において修正した（利益の場合は削減し、損失の場合は追加）。

- (i) 超劣後債（2013 年 3 月末は 6,500 万ユーロ）
- (ii) 株主資本として認識された永久劣後債（2013年3月末は1,400万ユーロ）

したがって、普通株 1 株当たり利益は、修正後の当期純利益を平均発行済み株式数から自己株式を控除した数字で除して求める。ただし、(a) トレーディング目的で保有する自己株式、および (b) 流動性契約に基づき保有する自己株式は平均発行済み株式数に含まれる。

4- **純資産**は、以下を除くグループ株主資本より構成される (i) 超劣後債 (53 億ユーロ)、従来は負債に分類されていた永久劣後債 (16 億ユーロ)、(ii) 超劣後債および永久劣後債に係る支払利息。ただし、トレーディング目的で保有する自己株式および流動性契約に基づき保有する自己株式の帳簿価額は含まれている。**有形純資産**は、資産の正味のれん代および持分法適用のれん代を調整する。1 株当たり純資産価値または 1 株当たり有形純資産価値の算出に使用した株式数は、2013 年 3 月 31 日現在の発行済み株式数から自己株式および金庫株を控除したものである。ただし、(a) トレーディング目的で保有する自己株式、および (b) 流動性契約に基づき保有する自己株式は含まれている。

5- **ソシエテジェネラルグループのコア Tier 1 資本**とは、Tier 1 資本から Tier 1 に算入可能なハイブリッド商品の残高およびパーゼル II に基づく控除率を差し引いたものである。この控除率とは、コア Tier 1 から Tier 1 資本に算入可能なハイブリッド商品を差し引いたものと、コア Tier 1 資本との割合に相当する。

2011 年 12 月 31 日以降、コア Tier 1 資本とはパーゼル II 基準の Tier 1 資本から Tier 1 に算入可能なハイブリッド資本を差し引き、規制に定められている Tier 1 の控除を適用したものととする。

6- 当グループの **ROTE** は有形資本を基準に算出し、累積平均帳簿資本（当グループの持分）、資産の正味のれん代の平均および持分法適用会社の保有株式に関するのれん代の平均などは控除する。ROTE の算出に使用した当期純利益は、超劣後債に係る当期分の税引き後支払利息（当期分の第三者に支払った発行手数料および超劣後債の発行プレミアムに係る割引料、超劣後公社債の償還プレミアムを含む）、当期に株主資本として認識された永久劣後債に係る税引き後支払利息（当期分の第三者に支払った発行手数料および永久劣後債の発行プレミアムに係る割引料を含む）を除外したものである。

7. 資金調達済バランスシート、預貸率および流動性準備金

資金調達済バランスシートは、保険子会社の寄与を控除し、また、デリバティブ、現先取引、調整勘定を控除した後の当グループのバランスシートを表している。資金調達済バランスシートは以下を反映するために修正再表示された：a) 従来「顧客預金」に分類されていた、現先取引に基づき顧客に引き渡した有価証券および資産（取引先のSGユーロCTの、2013年第1四半期は39億ユーロ相当の残高の控除後）の「現先取引および有価証券の貸借」への再分類；b) 資金調達済バランスシートでの、保険子会社の資産および債務の詳細な修正再表示；c) 国際会計基準（IAS）第39号の改訂で定める要件に従い、2008年に貸付・売掛債権に再分類された原金融資産の再統合；d) 従来「顧客貸出」に分類されていた金融専門会社のオペレーショナルリース固定資産の「長期資産」への再統合。

当グループの**預貸率**は、それぞれ定義されている顧客貸出および顧客預金の比率により算出されている。

2013年第1四半期末時点の流動資産のバッファまたは**流動性準備金**は1,350億ユーロだった。流動性準備金は中央銀行への預金純額640億ユーロ、および主に「HQLA」資産（高品質な流動資産）と呼ばれている流動性カバレッジ比率の対象である、中央銀行での利用可能な資産710億ユーロ（利用可能、割引後）により構成されている。全体では、これらの資産は短期残高（無担保短期債および銀行間の債務）の108%に相当する。2012年3月31日時点では、流動資産のバッファ総額は1,040億ユーロ（2012年12月31日：1,330億ユーロ）で、中央銀行への預金350億ユーロ（2012年12月31日：650億ユーロ）および利用可能な資産（割引後）690億ユーロ（2012年12月31日：680億ユーロ）により構成されていた。全体では、これらの資産は短期残高の93%（2012年12月31日：101%）に相当していた。

また、即座に取引可能な資産は250億ユーロ（2012年3月31日：140億ユーロ、2012年12月31日：250億ユーロ）だった。

8- 経済活動と関係ない項目、経常外項目、およびレガシー資産

経済活動と関係ない項目とは金融債務の再評価に相当する。これらの項目、および修正再評価されているその他項目の2012年第1四半期および2013年第1四半期の詳細は以下の通り。

2013年 第1四半期	業務粗利益	業務費用	その他	引当金 純繰入額	当期純利益	
レガシー資産	(10)	(18)		(35)	(45)	コーポレート& インベストメントバンキング
金融債務の再評価	(1,045)				(685)	コーポレートセンター
NSGB売却に伴うキャピタルゲイン			417		377	コーポレートセンター
TCW 売却に伴う調整			24		21	コーポレートセンター
CVA / DVAの影響	(64)				(45)	コーポレート& インベストメントバンキング
CVA / DVAの影響	(14)				(9)	フランス国内ネットワーク
CVA / DVAの影響	(2)				(2)	国際リテールバンキング
訴訟問題に対する引当金				(100)	(100)	コーポレートセンター
合 計	(1,135)				(488)	グループ

2012年 第1四半期	業務粗利益	業務費用	その他	引当金 純繰入額	当期純利益	
レガシー資産	(57)	(14)		(115)	(128)	コーポレート& インベストメントバンキング
SG CIB 主力事業の レバレッジ削減	(226)				(156)	コーポレート& インベストメントバンキング
金融債務の再評価	(181)				(119)	コーポレートセンター
CDS 時価評価	(32)				(22)	コーポレートセンター
ギリシャのソブリン エクスポージャー				(22)	(16)	コーポレートセンター
合 計	(496)				(441)	グループ

通期決算に関する全ての情報（主に：プレスリリース、ダウンロード可能なデータ、プレゼンテーション資料、付属書類）はソシエテ ジェネラルのウェブサイト：www.societegenerale.comの「Investor：投資家」セクションに掲載されています。

2013年第1四半期の詳細（英語版）は以下のホームページでご覧いただけます
・グループのホームページ：www.societegenerale.com

本リリースの照会先

ソシエテ ジェネラル証券会社 東京支店

ソシエテ ジェネラル銀行 東京支店

広報部 Tel：03-5549-5580 Fax：03-5549-5129